

細胞移植
初期
角膜内皮
世界

視力最大0.9まで回復

府立医大、同大など

200〜300人分培養へ

人の体内では増えない角膜内皮細胞を培養して目に移植する世界初の臨床研究について、京都府立医科大や同志社大、滋賀医科大の研究グループは12日、角膜が濁って視力が低下する「水疱性角膜症」の患者3人の矯正視力が最大で0・9と正常レベルまで回復した、と発表した。7月ごろから、改良した培養法で作製した細胞の移植を始める。

府立医大の木下茂教授、上野盛夫助教、同志社大生命医科学部の小泉範子教授、奥村直毅助教、滋賀医科大の中村紳一朗准教授のグループ。

グループによると、

患者は57歳と60歳の男性、68歳の女性で移植前の矯正視力は0・05〜0・06だったが、現在は0・1〜0・9まで回復したという。現在は1人分の内皮細胞を1人分だけ培養しているが、今後は200〜300人分まで増やして使用。選別法を改良して質も高める。

木下教授は「水疱性角膜症の患者は、特に

米国やドイツに多く、も広めていきたい」と今回の治療法を海外で語った。(松尾浩道)